



キャンパス / 熊本県熊本市、菊池郡菊陽町 学生数 / 3,730人 創立 / 1961年(1967年大学設置)
建学の精神 / 「健康で徳・智を備え科学的思考のできる秀れた人材の育成」
学部 / 工、芸術、情報、生物生命、薬
大学院 / 工学、薬学、芸術
THE 日本大学ランキング2023 / 151-200位

選ばれる入試の設計と企画

シームレスなハイレベル人材の育成			
高大接続	入試	入学前教育	大学での教育・研究
探究活動支援 ▶熊本サイエンスコンソーシアム(KSC) SSH指定校や理数科、理数コース設置校を対象に、他大学、教育委員会と連携し共同で探究活動を支援 ▶ディスカバ! in 崇城大学 探究プログラムや研究室見学を体験 ▶活躍の場の提供 「サイエンスインターハイ」や「つまようじタワー耐震コンテスト」等の開催	探究活動支援入試 ▶探究活動プログレス選抜 ・崇城大学の教員による探究活動支援を受けた生徒が対象(専願) ・1次:活動実績報告書、2次:研究成果発表(口頭試問を含む) ・入学後は希望の研究室に1年次から配属される ・特待生制度「ミライクSTEAM」の対象 ▶探究活動アピール選抜 ・探究活動を行い、発表体験のある生徒対象(併願可) ・1次:活動実績報告書、志望理由書、2次:研究成果発表(口頭試問を含む)	学力の担保に加えて意欲の向上も図る ▶探究活動プログレス選抜の合格者:追跡調査も兼ねて、入学前から研究についての学習内容・取り組み内容をポートフォリオに記録。指導教員がフィードバックを行う ▶入学前教育の充実を図る	研究 ▶教員の研究テーマに学生が合わせて研究を行うだけでなく、学生のテーマに教員が寄り添い「学生の心に火をつける」研究支援を行う 教育 ▶各学部の専門教育に加え、グローバル教育(外国人講師常駐の英語学習施設、海外研修制度の充実)、アントレプレナーシップ教育(低学年向けプログラム、SOJOアントレプレナーシップラボ)や、ITやAIを使ったPJ型アクティブラーニングが特徴

大学で育まれた知を地域に還元

注目

1年次から海外研修・国際会議に同行 「探究活動プログレス選抜」入学者のその後

探究活動プログレス選抜で入学した学生は、この2年間で5人。うち4人はKSC、1人は「ディスカバ!」経由での出願だ【右図】。このうちSSHの熊本県立天草高校出身の2人は、同じテーマを異なるアプローチで研究している。2023年度に入学した学生は高校時代、海水や海底の浄化作用を持つ海藻「アマモ」の発芽率を高める探究活動に取り組み、入学後は植物育成の部活にも参加している。1年次から国際会議にも同行した。一方、2024年度に入学した学生は、魚糞を活用したアマモ専用肥料の開発に取り組み。2人は今、生物生命学科の同じ研究室に所属し、コラボした研究を行っている。

「天草高校のアマモ研究のように、テーマを代々引き継げれば、研究は深化し、高校の看板研究になり得る。先輩の大学生が高校にフィードバックすることで、さらに研究の質は高まる」と山本部長は語る。一般の学生が研究室に配属されるのは3年次からのため、こうした「先輩」は他の学生の刺激になる。「学びの触媒として、多くの学生に影響を与えてほしい」(山本部長)。

探究活動プログレス選抜入学者の状況

チャンネル	高校での研究	大学での研究
KSC	アマモの発芽率	継続研究、海ナメクジの生態
KSC	環境DNAを活用したゲンジボタル	天然多糖を利用した生分解プラスチックの開発
KSC	定常液による水櫃の重さ*	波動をテーマにした「音の志向性」
KSC	魚糞を活用したアマモ肥料開発	先輩とコラボしながら継続研究
ディスカバ!	機能性表示食品「魚油クッキー」の開発	機能性表示食品の開発

※日本物理学会Jr.セッション優秀賞受賞



天草高校出身の2人がコラボし、アマモの定植と、魚糞と水質の関係の研究中

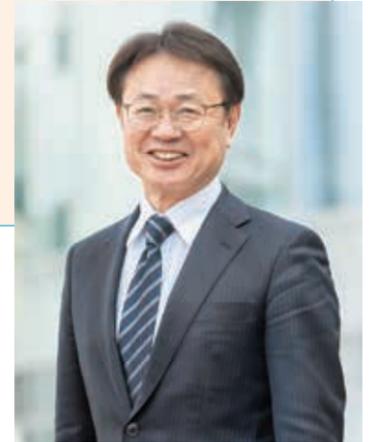
*3 未来育成特待生制度「ミライク」として、授業料無料の「ミライクプレミアム」、年間の授業料が50万円になる「ミライク50」、探究活動プログレス選抜対象の「ミライクSTEAM」等がある。
*4 桜美林大学との共同による高校生向けのキャリア支援プログラム。

CASE STUDY

探究、入試、大学教育・研究を結び 地域に必要なハイレベル人材を育成

崇城大学

高校生の探究活動をサポートし、大学でも継続して研究を発展させられるよう教育。この2つをつなぐ高大接続事業と総合型選抜の手応えを聞く。



入試広報部長

山本 朝昭

やまもと のりあき ● 高等学校で38年間教壇に立ち、2015年から2021年まで校長等を歴任。教諭時代は学年主任・教務主任として生徒の課題研究を推進し、校長時代はSSH校にて理数系人材の育成に努めた。2021年4月に崇城大学に入職、2022年から現職。

地域の教育機関とつくる 理数系人材育成の仕組み

本学に入職し3年。前職は高校教員で、SSH指定校の校長を務めました。*1。その際、高校だけでは解決できない、大学との連携が必要な課題を2つ抱えていました。1つ目は、卒業後の成長の可視化です。高校で育成した資質能力が大学でどう生かされたのか、社会に出て以降どうなるのか。追跡調査をしなければ検証できないという課題です。2つ目は、高校生の探究活動を高度化するためには、高校の教育リソースでは限界があること。大学教員の支援や研究施設の活用が求められました。2021年に本学に入職し、2つの課題に大学の入試広報という立場からアプローチする機会が巡ってきました。本学は実践的英語力の養成・アントレプレナーシッ

プ教育・情報教育に力を入れ、高校生の研究支援にも積極的に取り組んできました。これらを生かし、高校と大学が1対1ではなく、多対多で理数系ハイレベル人材を育てる高大接続事業を企画しました。本学が単独で個別の高校を支援するには限界があるからです。まず、県内のSSH指定5校が教育委員会の支援のもとで、熊本サイエンスコンソーシアム(KSC)を設立。本学とKSCが協定を結び、SSH校に対して包括的に探究活動を支援し、進学後の成長を追跡する仕組みを構築しました。加えて、探究活動と大学での研究を接続する2つの総合型選抜を、2023年度入試から始めました。1つは、高大でシームレスな研究を行うロールモデルづくりとしての「探究活動プログレス選抜」。本学の研究支援を受けた生徒が対象で、大学1年次から研究室に入室でき、研究に専念するためのミライクSTEAMという経済的支援もあります。研究室の受け入れ体制により人数は限られますが、初年度は2人、本年度は3人入学し、高校時代の研究を続けています。2つ目は探究心豊かな生徒を擁する「探究活動アピール選抜」。「SNSでバズるイラストの特徴」といったユニークな研

究で芸術学部にも合格者が出るなど、手応えを感じています。

年内入試の拡大は 入学前教育拡充とともに

KSCのほか、より多くの理数系人材育成に向けたさまざまな教育プログラムを実施しています。高校生向けには「サイエンスインターハイ」「つまようじタワー耐震コンテスト」など、探究活動等の成果発表の場を設けています。前年度からは桜美林大学の「ディスカバ!」と提携し、本学教員と探究活動に取り組むプログラムを提供。九州以外からの参加者も増えています。高校教員向けには、高校訪問や出張講義に加え、入試の検証会に招聘し、間接的に本学を知る機会を増やしています。

年内入試入学者は意欲的で、一般人入試入学者より活躍している事例が多数あります。課題となる学力の担保に向けて、入学前教育を充実させ、学びの動機付けと両立できるプログラムを検討中です。県内にできた台湾企業の半導体工場には、数多くの学生が内定しており、これは英語教育に力を入れた成果だと自負しています。今後も多くの優れた人材を育成し、地域に貢献していきます。

*1 スーパーサイエンスハイスクール。2002年度より開始。高校で先進的な理数教育や大学との共同研究、国際性を育む取り組みを推進する文科省の事業。
*2 熊本県内のSSH指定校5校、理数科・理数コース設置校3校が参考するコンソーシアム。県教育委員会の指導・助言の下、高大連携・高大接続、探究活動の推進、企業との連携に取り組む。

取材・文 / 鈴木康介 撮影 / シコロハルナ